

高校

「高校生サイエンス研究発表会」で 生徒2名が「リケジョ優秀賞」受賞

高校3年に在籍する中西美穂さん(萩組)と佐々木璃乃さん(梅組)が、2024年3月に開催された「第6回 高校生サイエンス研究発表会 2024」で行った研究発表「日本の伝統的な眉墨『マコモ』の耐汗性について」が「リケジョ優秀賞」を受賞しました。

本大会は第一薬科大学、日本薬科大学、横浜薬科大学主催(後援:福岡県高等学校理科部会)の高校生の理系分野を中心とした研究発表会で、3月中旬~下旬にかけて、Zoom形式のオンライン発表会と対面形式のポスター発表会がそれぞれ実施されました。全国62校の高等学校から297演題(うち、女子チームは141演題)が集い、参加した生徒たちは、パワーポイントによる発表だけでなく、ポスター、電子黒板・書画カメラを使うなど、柔軟な発想でそれぞれ発表を行いました。

そして、6月4日、主催大学による審査結果・受賞演題が発表され、本校の中西さんと佐々木さんの研究「日本の伝統的な眉墨『マコモ』の耐汗性について」が見事「リケジョ優秀賞」を受賞しました。

受賞生徒のコメントを右に掲載します。



佐々木さん(左)と中西さん(右)

*** 生徒コメント ***

中西美穂(3萩)

私たちが研究を始めてから約2年、実験だけではなくポスター作成や発表練習、質疑応答などの準備も行ってきました。今日に至るまで多くの困難にぶつかり、大変だと感じることもありましたが、これまでの努力がこのような大きな賞に繋がったことをとても嬉しく思うと同時に、研究に対する大きな自信ができました。共に研究を行ってきた佐々木さんと研究をサポートしてくださった草薙先生をはじめ、多くの方々に感謝申し上げます。

佐々木璃乃(3梅)

この度は「リケジョ優秀賞」という素晴らしい賞をいただき、大変嬉しく思います。研究を通して、実験結果から新たな考えを生む難しさや何度も試行錯誤を重ねる大切さなど多くのことを学びました。指導してくださった先生方やサポートしていただいた皆さんに感謝をし、これからも探究を続けていきたいです。

大学

伝統工芸産業発展共同研究成果第一弾として 生成アルゴリズムによる「江戸小紋」の新図案と新商品を発表

経営学部川越ゼミ

X

武蔵野大学データサイエンス学部

5月29日、本郷キャンパスにて、経営学部経営史研究ゼミナール(担当教員:川越仁恵准教授)と武蔵野大学データサイエンス学部の共同研究によって制作された新作江戸小紋図案、および新図案で染めた新商品「スイーツ尽くし小紋」のメディア向け発表会が実施されました。

両大学では2021年より、伝統工芸品の中でも技術の継承・図案の新作誕生が難しい江戸小紋に着目し、生成AI関連技術による伝統工芸産業発展の共同研究に取り組んでいます。本学では、江戸小紋の古い作例から、流行した江戸小紋の特質をマーケティング調査し、これまで暗黙知であった図案の制作理論を明らかにしました。武蔵野大学は、その理論に従って、デザインモチーフを自動で配置する独自のアルゴリズムを見出すことに成功しました。

川越ゼミの学生たちは、江戸小紋の中でも錐彫りと呼ばれる技法で小さなモチーフをランダムに配置する「けれんもの」において、錐彫りの特徴である「点」で描き分けが可能な100種類にも及ぶモチーフを試作・選定していきました。武蔵野大学では、これまで難しかったランダムにモチーフを配置する図案構造を、生成アルゴリズムを活用して生成し、最終的に手作業で配置の修正をすることで、バラエティに富む散らばり方による美しい図案が誕生しました。そして、いくつかのモチーフ図案を東京染小紋の伝統工芸士である五月女利光氏に提案し、「スイーツらしく見える」「シルエットがバラエティに富んでいて散らばり方、ランダム具合が一番美しい」「人気でそうな図案」という観点から、「スイーツ」図案が江戸小紋の新作「スイーツ尽くし小紋」として商品化に至りました。

発表会当日は4媒体のメディアが参加し、6月末日現在で170を超える媒体に掲載されています。本研究では、江戸小紋に新しいアイデアを提供するだけでなく、デザイン支援システムとして伝統産業の分業を補完し、それによって着物市場を活性化させることを目指していきます。



今回お披露目された江戸小紋新作「スイーツ尽くし小紋」

*** 学生コメント ***

西 智哉・山田江里・湯田実穂・高崎寛也(川越ゼミ・経営学部3年)

今回、このような取り組みを五月女染工場の五月女様、そして武蔵野大学の皆さまと一緒することができてとてもうれしく思っています。また先輩の代から続いてきた本プロジェクトを無事発表することができ、ホッとしました。このプロジェクトは、今後是非続けていきたいと思っていますし、今後は、今まで誰も思いつかなかったモチーフも作っていきたいと思っています。今回まずは着物製造の現場を支援していますが、このシステムはじつは染物だけでなく、プリントにも応用できます。海外からのお客様の多いホテルや施設などのカーテン、壁紙、椅子の張地などに応用して、「遠目では無地のよう、近寄ると繊細な模様」という江戸的なセンスを活かしたインテリアにもいかしてほしいです。また経営学を学んでいる私たちだからこそ持つ、デザイナーさんとはまた違った視点、たとえば市場起点の開発なども行えたらと思っています。

写真左から西さん、山田さん、川越准教授、五月女氏、湯田さん、高崎さん、武蔵野大学岡田龍太郎助教、同大学院生田丸翔大さん ▶



GREEN SPIRITS



豊かな社会を構築する 福祉医療のマネジメント

専門職大学院福祉医療マネジメント研究科
委員長・特任教授
亀川 雅人

2024年4月、文京学院大学に専門職大学院福祉医療マネジメント研究科が開学しました。1学年の定員50名(春入学25名、秋入学25名)という比較的大きな大学院です。

福祉医療という産業は、旧来より存在していますが、AI(人工知能)などの産業と同じく、リーディング産業にならねばなりません。AIは石油や鉄などと同じく、すべて

の産業の基盤となりますが、福祉医療も私たちの生活基盤を形成します。私たちの暮らしは、衣食住に必要なモノやサービスの消費によってなされますが、保育や教育、健康管理や介護などが満たされなければ、豊かさを実感することはできません。福祉医療のサービスを充実させることで、漠然とした不安から解放され、生活を楽しむことができるのです。

福祉医療の仕事は、対人関係のサービス提供であるため、大量生産による所得創出ができません。ひとりの子どもの世話や介護すべき人に付き添えば、所得の成長は期待できません。経済的弱者を保護する社会は、市場競争による利潤原理に馴染まないのです。市場の「見える手」が機能しないとすれば、社会と組織による「見える手」による資源配分が必要になります。「見える手」とは、経

営者や管理者、そして仕事に従事する一人ひとりのマネジメントによる資源配分です。

日本のみならず、先進諸国の多くで少子高齢化が進んでいます。働き手が減り、健康に不安のある人や介護の必要人が増えます。多くの人は長寿を望みますが、働けない人を支えるには、福祉医療サービスの生産性を高めねばなりません。一人ひとりが優秀であっても、適切なマネジメントなしに多職種連携の生産性は向上せず、所得の増加も叶いません。

本研究科は、福祉医療の分野に関わるすべての人に開かれたマネジメントの学び舎です。働きながら学ぶ人のために、奨学金も充実しています。就職と同時に進学も検討してみてください。人生の選択肢を広げるお手伝いができると思います。

大学 就職状況レポート

文部科学省・厚生労働省共同調査による2023年度の全国大学卒業生就職率は、98.1%でした(4月1日現在)。一方、本学では、大学全体で98.4%の高い就職率実績を上げました。これらの結果について、両キャンパスのキャリアセンター長は以下のように分析しています。

三俣正治 本郷キャンパスディレクター補佐
キャリアセンター長

外国語学部に関しては、ここ数年、情報通信業界を中心に就職していますが、運輸・郵便、宿泊・飲食業界でも就職率が伸びています。経営学部は、ビジネス実践型授業の成果を活かし、例年通り、IT企業をはじめとする幅広い業界、職種に就職しています。人間学部コミュニケーション社会学科と人間福祉学科福祉マネジメントコースの卒業生は、各専門知識、コミュニケーション力を活かして幅広い業界に就職しました。保健医療技術学部臨床検査学科は、卒業生の5人に1人の割合で大学院に進学したほか、大病院、一般・総合病院への就職者も例年並みとなっております。看護学科は第一期生の卒業生から7期連続就職率100%を達成しています。



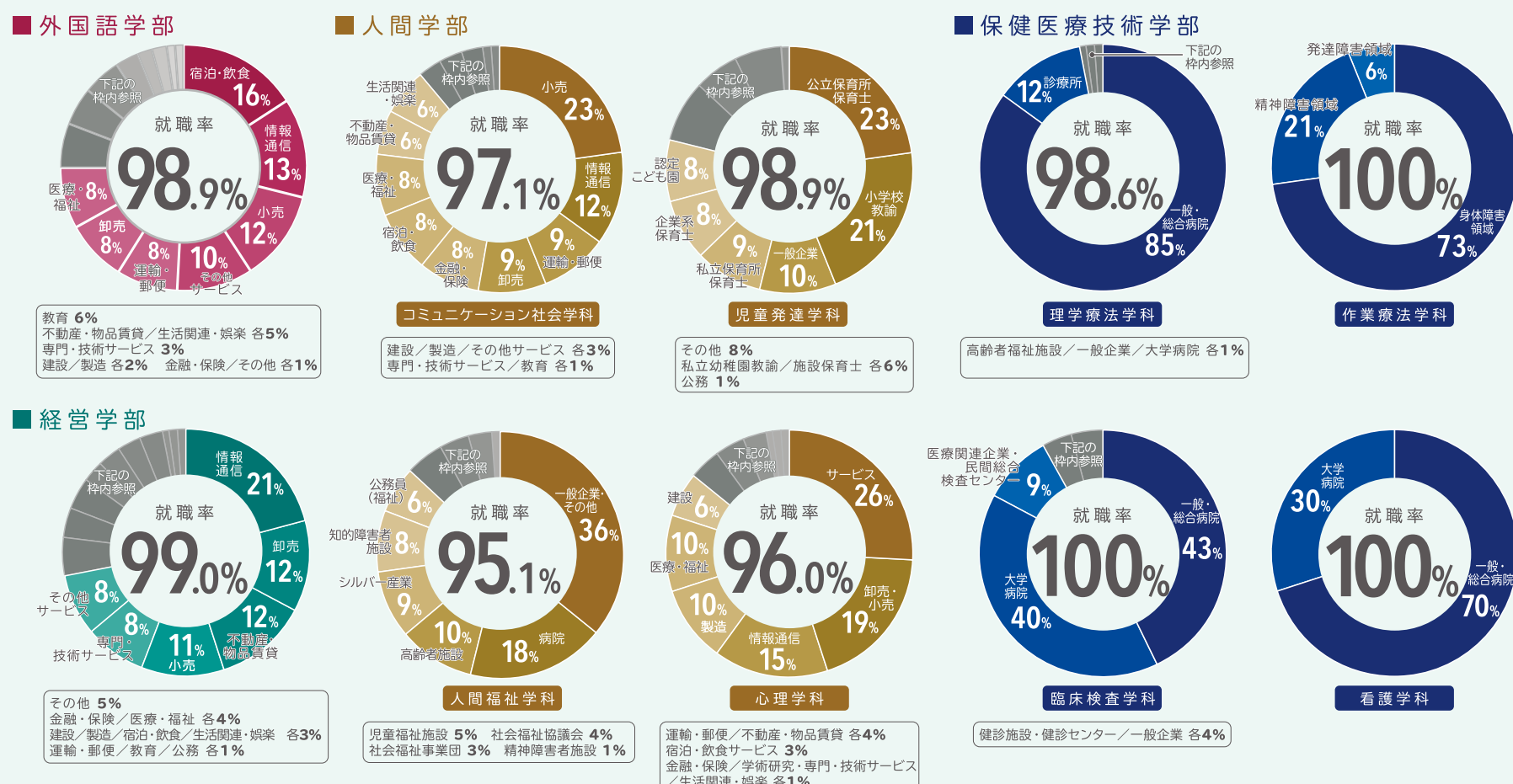
坂本修一 ふじみ野キャンパス
キャリアセンター長

人間学部の学科別就職先を見ますと、人間福祉学科ソーシャルワークコースでは64%が施設、社協、事業団、病院などの専門職に就職しました。施設や病院が主な就職先ですが、36%の学生は一般企業に就職しました。学内に公務員試験対策講座も実施し多くの学生が熱心に取り組んでいます。心理学科の主な就職先は一般企業ですが、人材、IT業界への就職者が増えています。児童発達学科の主な就職先は保育所、幼稚園、小学校ですが、今年度は就職者の23%が公務員として公立保育所に、また21%が小学校教諭として就職しました。保健医療技術学部は、それぞれ理学療法士、作業療法士として病院、診療所、施設、医療関連企業に就職しています。高い就職率の要因としては、これまで継続してきた以下の3点が挙げられます。



- ①3年次より始まる学科別職員担当制による個別面談(対面、オンライン)
 - ②キャリア授業と連携した多岐にわたる支援イベント
 - ③授業や実習を通じて培われた専門知識や社会人基礎力の充実
- 一般企業に関しては、就職環境も好調で年々採用試験も早期化しています。反面、求められる要素も高くなってきており、学生によって状況に大きな差が出てきています。それぞれの学生に合った個別支援の強化を目指していきます。

2024年3月卒業生就職先 業界別割合と就職率



大学 国家試験合格率

2023年度保健医療技術学部5資格の国家試験と、人間学部3資格の国家試験の結果について、両学部長が分析しました。

保健医療技術学部4学科5職種の国家試験合格者数(本学現役合格率:全国現役合格率)は以下の通りです。理学療法士69名(本学95.8%:全国95.3%)、作業療法士34名(本学97.1%:全国91.6%)、臨床検査技師58名(本学81.7%:全国88.0%)、看護師66名(本学100%:全国93.2%)、保健師9名(本学100%:全国97.7%)でした。4学科の学生は、各職種の指定規則に則ったカリキュラムにより、知識・技術・コミュニケーション能力を学んできます。国家試験合格は、卒業時の重要な目標ではありますが、それは臨床家として活躍するための最低条件で、あくまでも臨床家としてのスタートラインに立つことを公的に認められたに過ぎません。私たちの対象者は、一生懸命よくなりたいと思っているものの、それがなかなか実らず、つらい思いをされている方々です。このような思いをしている対象者に寄り添える、高い対人援助技術を持った、質の高い卒業生を輩出すべく、2024年度も教職員協力しながら、学生の学びの支援をしていきたいと思ひます。

2023年度国家試験合格実績(既卒含まず)

資格	理学療法士	作業療法士	臨床検査技師	看護師	保健師
受験者	72名	35名	71名	66名	9名
合格者	69名	34名	58名	66名	9名
合格率	95.8%	97.1%	81.7%	100%	100%
全国平均合格率(現役)	95.3%	91.6%	88.0%	93.2%	97.7%

人間学部人間福祉学科における国家試験合格率は、社会福祉士63.8%(全国平均58.1%)、介護福祉士100%(全国平均82.8%)、精神保健福祉士83.3%(全国平均70.4%)となっています。ご覧いただく分かるように、すべての資格において全国平均を上回っています。これも偏に、先生方のご尽力のおかげです。改めてご指導に感謝いたします。人間福祉学科ではキャリア形成のステップがしっかりと体系づけられています。1年次:自己探索期(自己分析の実施)、2年次:就職準備期(進路の検討)、3年次:適正発見期(社会・現場経験)、4年次:活動実践期(対策講座の実施及び就職活動)です。このようなしっかりとした体制が国家試験における高い現役合格率に繋がっていると考えられます。福祉に熱い想いを持った教員と一緒に、手厚い対策で国家試験合格を目指していきます。最後に、自分の夢を叶えるために精一杯努力し合格を勝ち取った学生たちを讃えてあげたいと思ひます。おめでとうございます。よく頑張りました。

2023年度国家試験合格実績(既卒含まず)

資格	社会福祉士	介護福祉士	精神保健福祉士
受験者	47名	17名	12名
合格者	30名	17名	10名
合格率	63.8%	100%	83.3%
全国平均合格率(現役)	58.1%	82.8%	70.4%

学院 教職員表彰授与式 開催

5月25日、長年にわたり本学院に貢献された方々の功績を称える教職員表彰授与式が、本郷キャンパスS館8階会議室にて開催されました。

橋本博幸法人事務局長の司会進行のもと、式が執り行われました。表彰対象者14名のうち12名が出席され、島田昌和学院長・理事長より表彰状と副賞の贈呈、および、式辞が述べられました。そして、島田輝子名誉学院長より、表彰者の方々の感謝が述べられたあと、表彰者代表として川邊信雄名誉教授からご挨拶をいただきました。最後は、本学発展に対する表彰者の貢献を称え、会場は大きな拍手に包まれました。尚、今回副賞として贈られたのは、本学と包括連携協定を結ぶ神奈川県藤沢市を拠点に活動されている藍左師・守谷玲太氏と神奈川県伝統工芸品「鎌倉彫」のコラボレーションで、本学院の創立100周年を記念して富士山と桜をモチーフに制作されたオリジナルの飾り皿です。式が終わると、会場を移動して、BGハウス見学とサロン・ド・ブンキョウでの昼食会が実施されました。昼食会終了後は、B's Cafeでの教職員交流会も行われ、終始和やかな雰囲気、参加者同士思い思いに談笑と交流が行われました。

教職員表彰受賞者
川邊信雄名誉教授/工藤秀機名誉教授/林 寛美名誉教授/海老澤信一名誉教授/櫻山義夫名誉教授/下村弘治先生/石田知先生/吉原ひろ子先生/渡辺敏雄先生/煙山 力様/藤森秀美様/清水秀樹様/佐藤克広様/寺久保彰正様



式に出席された表彰対象者と関係者

大学 総合研究所共同研究発表会 全40チームが発表

6月1日、「総合研究所共同研究発表会」がオンラインで実施されました。2023年度に採択され、1年間にわたり共同研究に取り組んできた40チームの代表が、各グループに分かれて研究プロセスや成果、課題などについて発表。そのうち、「共同研究費採択」としては29チーム、「学長裁量経費採択」としては11チームが発表しました。小林剛史同研究所長・人間学部教授による全体進行のもと、各グループの司会は、各学部長・研究科委員長が担い、どの発表も独創性に富み、活発な質疑応答が繰り広げられました。

中高 体育祭 開催

6月5日、武蔵野の森総合スポーツプラザ(調布市)で体育祭が開催されました。平日にも関わらず、多くの保護者の方々にもご来場いただきました。佐藤泰正高等学校副校長の開会宣言後、優勝旗が返還され、清水直樹校長からエールが送られました。体育祭実行委員長の松本結衣さん(高校・3萩)が生徒宣誓し、いよいよ競技がスタートしました。午前中は、全学年による「50m走」、音楽に合わせて踊りながら音楽がストップすると同時に玉入れを始める「踊れ!玉入れ」、ダンボールの箱を積み上げながら運んでリレーする「宅配便リレー」など8種目が行われました。その一つ、中学2年生全員による文京学院伝統のエアロビクス「ミッキー」では、観客席の生徒たちも一緒に踊って楽しみました。午後は、先生方と後援会役員代表も参加した「障害物競走」から始まり、心を合せて大人気で挑戦する「大縄跳び」や学年対抗の綱引き「ロープファイター」など9種目が行われました。毎年恒例の中学3年生全員による集団演技は、名曲『かもめが翔んだ日』に乗せてスピード感の溢れるダンスを披露、元気いっぴいの学年らしい演技でした。最終種目の「クラス対抗リレー」、「オールスターリレー」では生徒の全力で走る姿に、会場はこの日一番の大歓声に包まれました。今年は中3・高3のレッドブロックが優勝となりました。清水校長から優勝旗を授与された中3・高3の代表生徒は溢れる笑顔で優勝旗を手にしました。長い期間をかけて企画・運営準備を行ってきた三役をはじめとする体育祭実行委員会が中心となり、学校全体が一つになった体育祭が終了しました。

PHOTO GALLERY 中高体育祭 フォトギャラリー(写真提供:スタジオ・トナミ)



大学

2024年度版「釜石スタディケーション」を実施

2024年5月12～26日の約2週間にわたり、経営学部の学生7名とウズベキスタン国立世界言語大学からの留学生1名が、本学と包括連携協定を締結する岩手県釜石市に滞在しながら、複数の地元企業や行政と産官学連携を行い、釜石市が抱える課題に対して学生ならではのアイデアで解決に取り組む「釜石スタディケーション」が実施されました。「スタディケーション」は、東京から離れた地方で授業を受けながら、その場でしか体験できないフィールドワークを実施することで学生に新たな教育環境を提供するものです。

スタディケーション期間中、学生8名は、①料理宿「宝来館」、②水産加工製造販売「津田商店」、③酒造「浜千鳥」、④「釜石市役所」の計4つのインターンシップ先に分かれ、現地で大学のオンデマンド授業を受けながら、6日間のインターンシップを行いました。

「宝来館」では、学生2名が接客や配膳、清掃など旅館業務全般を体験。「津田商店」では、学生3名が品質検査やサンプル作成などの業務体験とオンラインショップ「子どもようおさかなさん」の知覚率向上やお店の認知拡大に向けた活動を行いました。また、今年から新たにご協力いただくこととなった「浜千鳥」では、学生2名が酒粕を剥がす作業や酒瓶の箱詰めなど製造現場での業務のほか、酒米農家や地域で活躍されている方や販売店の方へのインタビューを実施。企業が抱える課題やInstagramでの情報発信内容に関する学生目線での提案も行いました。さらに、「釜石市役所」でのインターンシップには留学生1名が参加し、国際交流課にて、グローバルラウンジと呼ばれる釜石市在住の外国人に日本の文化を理解してもらう交流イベントを実施。マレーシアやフィリピン、アメリカ、ペラルーシなどさまざまな国籍の方々に参加した「かるた遊び」のサポートを行いました。また、市内の5か所の保育施設を訪問し、1～5歳の子どもたちに歌や本を通して英語のレクチャーも行いました。

また、滞在期間中、学生たちは5月21日に釜石PITで行われた「かまいし未来づくりプロジェクト」における「シティープロモーション」をテーマにしたワークショップに参加し、地元メディアの取材も受けました。

学生たちにとって、釜石市での滞在は、普段都会の生活では体験することのできない、地域の人々との触れ合いを経験できる貴重な機会となりました。

今回の「釜石スタディケーション」で団長を務めた学生からのコメントを以下に掲載します。

*** 学生コメント ***

坂井優星 (経営学部3年)

昨年も「釜石スタディケーション」を経験しましたが、今年は団長としての参加となりました。滞在当初は、環境に慣れずに疲れているメンバーも見受けられましたが、徐々に皆適応していき、現地での生活を楽しみながら、勉強と休暇、さらには自己と向き合う時間までを上手くつくる事ができていました。釜石の皆様は本当に優しく、参加者全員がその優しさから居心地の良さを感じたようです。

また、メンバー全員が自分の役割は何かを考え、成長のための目的意識を持って行動していたため、滞在前後で顔つきが大きく変わりました。そのきっかけの一つがインターンシップです。実務型・課題解決型の2種類のインターンがありました。全6回しかなく、短期間というのが非常に難しかったです。時にはチームでぶつかることもありましたが、チームで協働することで「チームとは何か」「それぞれの役割とは何か」ということが実践的に身についたのではないかと感じています。

このような普段の生活ではできない経験ができること、現地に赴かないと分からない良さや学びを感じ取ることができるのがこのスタディケーションの良さだと思いますし、昨年からのブラッシュアップしてくれたメンバーには心から感謝しています。

PHOTO GALLERY



100TH ANNIVERSARY TOPICS

SINCE 1924



ひたむき・まえむき・おもむき
tomoちゃん

第94回

画：美術部(中学)キリタンポ

パシフィックフィルハーモニア東京の生演奏による 中学1年生「音楽」の特別授業を実施

5月27日、文京学院大学女子中学校にて、パシフィックフィルハーモニア東京の奏者の皆さんをゲストに迎え、1年生の「音楽」の授業において、特別授業が実施されました。中学校では、2024年3月の協定締結以来初の連携事例となりました。

当日は、弦楽四重奏(第1ヴァイオリン、第2ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ)にヴァイオリンをもう1本増やした編成で、プロによる生演奏の特別授業となりました。松本まりこ教諭が教科書に沿ってヴィヴァルディの『春』について、情景や小鳥の鳴き声、小川が流れる様子、春の嵐などをどのように楽器で表現しているかの解説を行い、生徒たちは曲に込められた意味を理解しながら、プロの演奏に聴き入っていました。さらに、ヘンデルの『シバの女王の入城』、モーツァルトの『アイネ・クライネ・ナハトムジーク』、久石譲の『海見える街』などの名曲の数々も披露され、奏者同士の息の合わせ方についても学びました。

また、今回演奏された3種類の楽器の紹介も行われ、弾き比べによる音の違いや弦の素材などについても理解を深めました。最後は、生徒たちの『エーデルワイス』の合唱に合わせた演奏で締めくくられ、生徒たちにとっては大変貴重な授業となりました。



特別授業の様子



『エーデルワイス』を合唱共演した生徒たち



「学校法人文京学院 創立100周年記念事業募金」中間報告

昨年11月より寄付金への御協力をお願いしてまいりましたが、2024年6月30日現在における寄付申し込み件数は318件、申し込み金額は32,598,724円となりました。

卒業生や企業・団体様、後援会・同窓会・校友会の皆様をはじめ、本学院を支援くださる多くの皆様から心のもった御寄付をいただき、心より御礼申し上げます。募金受付は2025年3月末日まで継続しておりますが、取り急ぎの途中経過として御報告申し上げます。今後とも、皆様方のお力添えを賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。